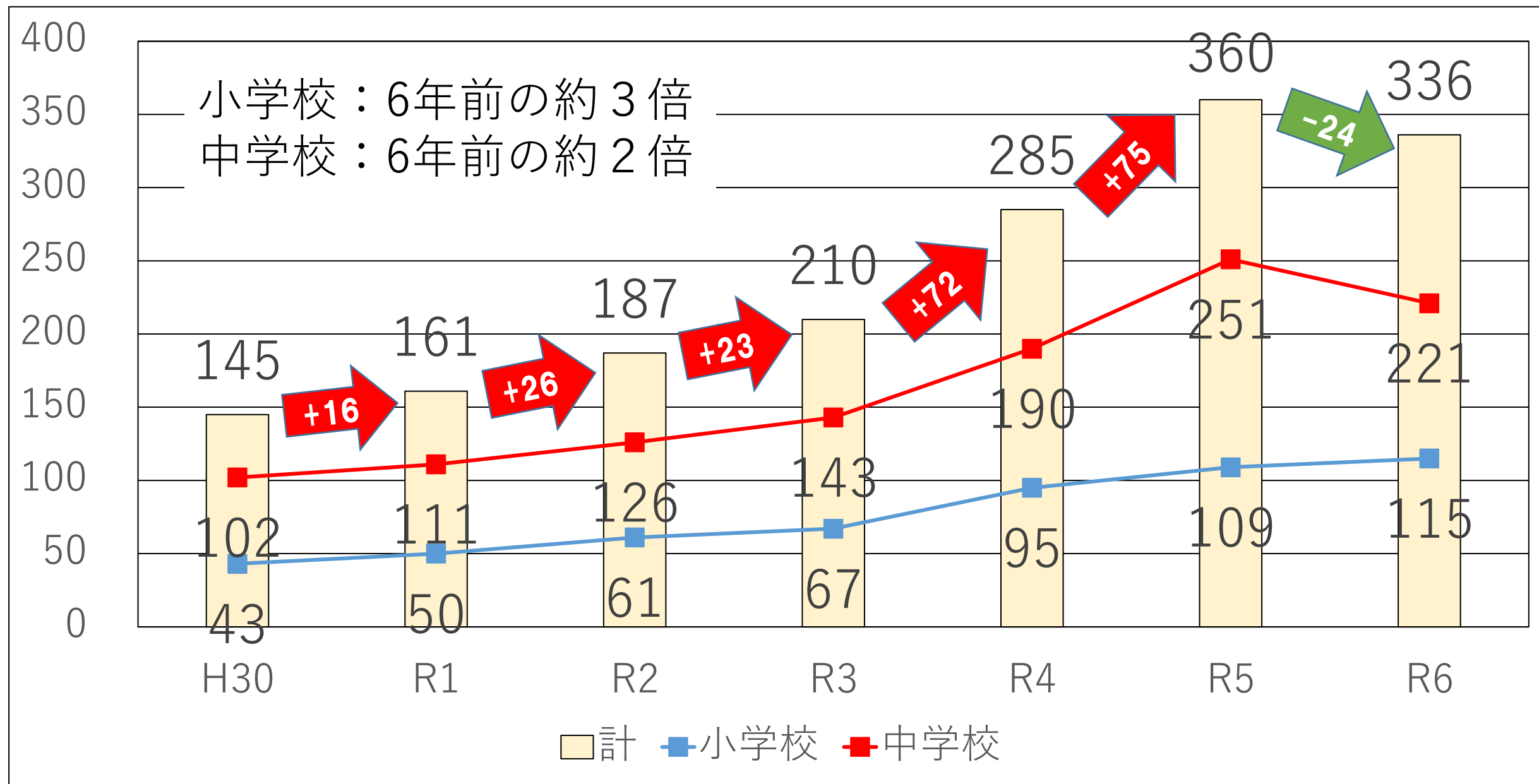


# 不登校対策の現状と課題

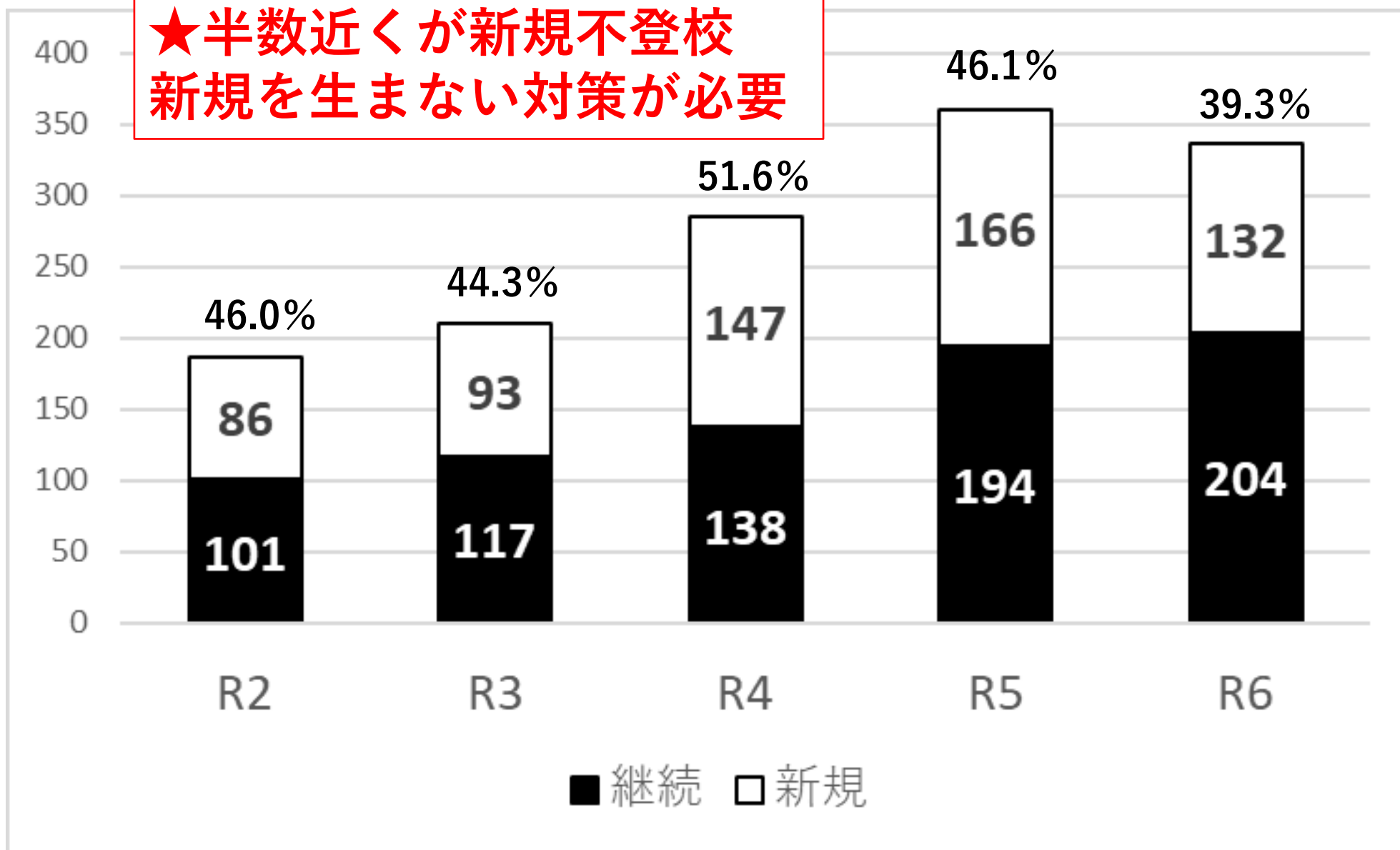
# 不登校の現状

## 小松市 不登校数(30日以上欠席者)の推移



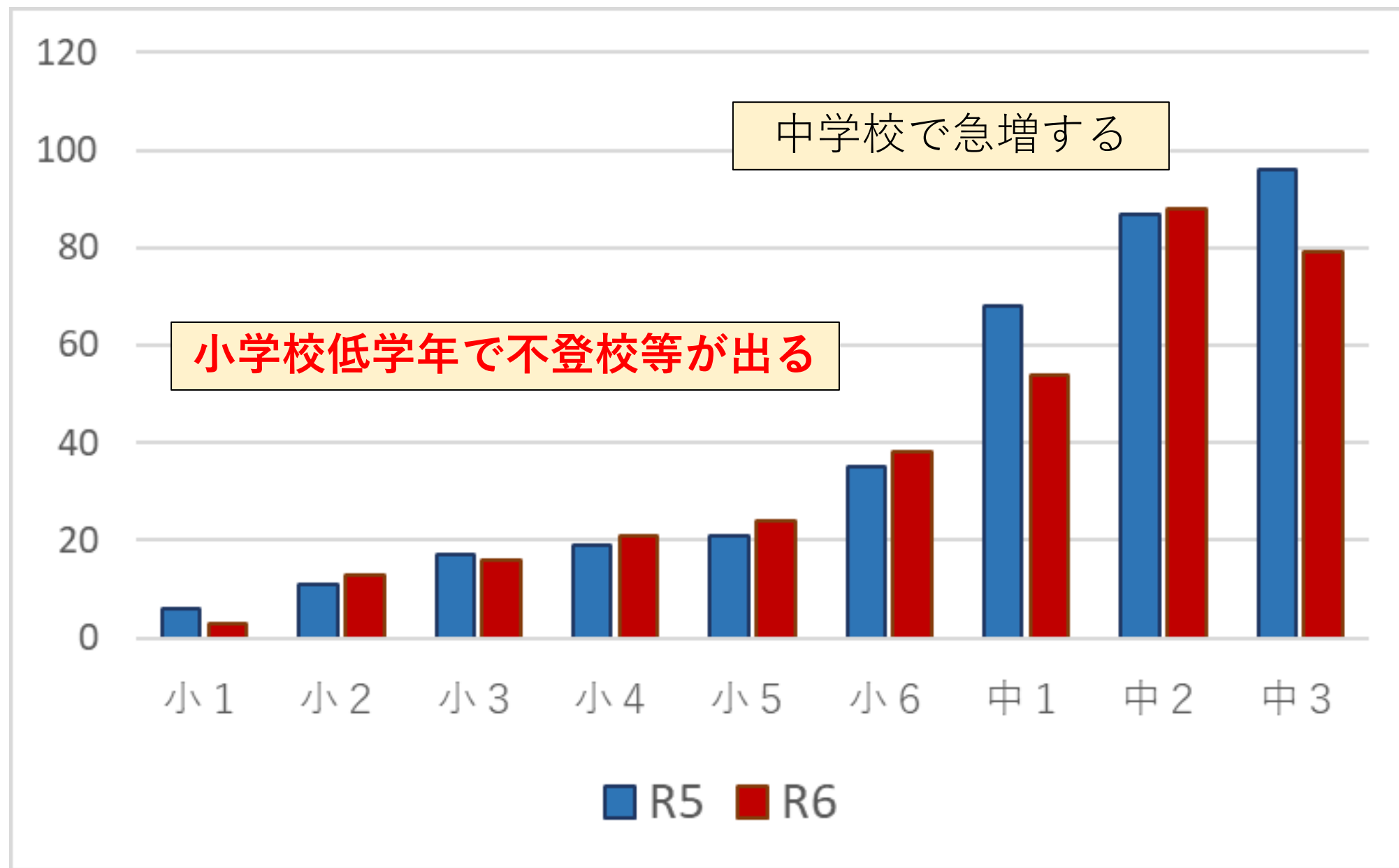
# 不登校児童生徒数推移（継続・新規）

★半数近くが新規不登校  
新規を生まない対策が必要



# 不登校の現状

## 学年別不登校数児童生徒数



## 不登校増加の背景

- 新型コロナウイルス禍による生活の乱れ
- ★ 教員の不足や若返りによる支援の不十分さ  
→特に小学校で子供のちょっとした躓きへの対応が難しいという声
- 「無理に通学させる必要はない」と考える  
保護者の増加 など

2024年度文部科学省「問題行動・不登校調査」等より

# 不登校対策 1 多様な学びの場の確保し、学びたい時に学べる環境を整備

## 校内ステップルーム（校内教育支援センター）

**学校には行けるけれど自分のクラスには入れない** 時や、少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたい時 に利用できる、学校内の空き教室等を活用した部 屋のこと

## ふれあい教室（教育支援センター）

**学校にいけない児童生徒のために**、一人一人に合わせた個別学習や相談などを行って くれる場所のこと

## ★学びの多様化学校（不登校特例校）

**学校に行きづらい児童生徒のために**、通常の学校 より授業時間数が少ないなど、柔軟に学ぶことがで きる学校（小・中・高等学校等）のこと

★それぞれの**役割を明確化し、必要な機能や連携を充実**させる必要

# 不登校対策 1 多様な学びの場の確保し、学びたい時に学べる環境を整備

## ★「家から出ることができない児童生徒」への支援

### オンラインの活用

在籍校や教育支援センター、不登校特例校の授業配信、オンラインカウンセリング等を自宅でうける。

### アウトリーチ支援

学校と繋がっていない不登校児童生徒及びその保護者に対して、民間団体とも連携しつつ、教育支援センターから訪問支援を受ける。

### 教育支援センターの機能強化

上記の活用・支援が実効性あるものとなるよう、教育支援センターが中心となって動ける組織にしていく。

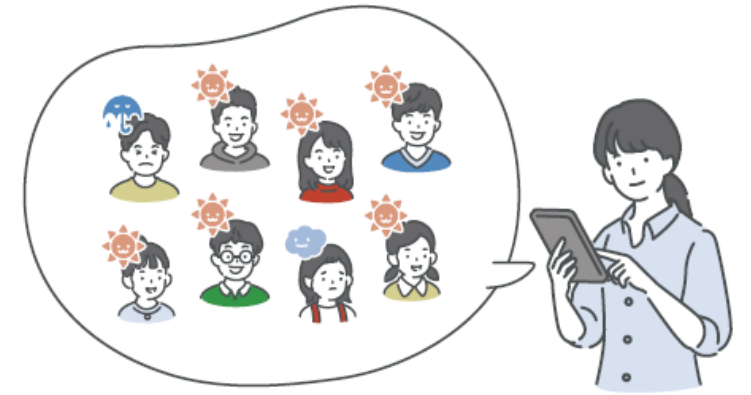
## ★① 端末や各種データ等も活用し、予兆をいち早くキャッチ

② 学年会等での情報共有・対応協議  
(必要に応じてSC等を要請)

③ 本人との面談や家庭訪問の実施

④ 個人状況・学校対応状況シートの作成

⑤ 教育相談、養護教諭等も入れた支援チームによる  
学校全体での組織的な関わり





# 不登校対策 3 学校の風土の「見える化」を通して、学校を 「みんなが安心して学べる」場所に

## ① 自ら学ぶ意欲を高める学習活動の工夫

みんなが活躍できる機会や出番がある授業づくりが行われるよう、  
**1人1台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びによる、一  
方通行型でない、子供たちの特性に合った柔軟な学びを実現し、そ  
れぞれが前向きに学べるようにしていく。**



子供主体の授業づくりで不登校を減らした  
天童市立天童中央小学校

## ② 学校の風土を「見える化」

学校評価の仕組みを活用して、**児童生徒の授業への満足度や教職員への  
信頼感、学校生活への安心感等の学校の風土や雰囲気**を把握し、学校運営を改善していく。

## ③ 集団適応力の育成に向けた道德教育や特別活動の充実

**多様性を尊重**しつつ、共に学び合える心情を育むとともに、**学校行事や企画・運営やルール作  
りに子供たちが主体的に参加することで、児童生徒が主役になって、みんなが安心して学べる  
「温かみのある」場所**にしていく。